

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

(Bユニット)

事業者名	グループホーム生きがい	評価実施年月日	平成20年12月25日
評価実施構成員氏名	佐藤 和枝(ホーム長・看護師) 木村 正信(計画作成担当者・介護支援専門員) 加藤 洋子・畔田 百合子・中澤 由佳・佐藤 節子・永田 和子・山根 千代美 岩渕 和子(介護職員)		
記録者氏名	佐藤 和枝	記録年月日	平成20年12月25日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	人と人との輪を大切にし、不安やストレスの無い環境を作り、個々に合わせた対応を行う。	○	地域との関わりを大切にし、さまざまな方法で交流を行っているので、理念に盛り込んだ。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日常的に管理者及び介護従事者は、カンファレンスや勉強会により、法令及びホーム理念や目標を具体化するように取り組んでいる、		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域・家族等に、運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。(催物の案内・ホーム便り)		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	利用者の散歩時、買い物時、催物参加時等、交流の促進を図っており、良い関係が築かれている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	行事等の参加又は受け入れ等、地域の人々と交流する様に努めている。	○	「町内会報」に、ホーム行事案内を載せて頂き、ホームの紹介を行った。行事には、近隣の方に多数お越し頂き、良い機会が作られた。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	入居者のケアに配慮しつつ、ホームを地域に開放し、認知症の相談対応・家族ボランティア等の見学・研修の受け入れを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ミーティングなどで自己評価及び外部評価結果等を検討し、日常的に改善に取り組んでいる。	○	毎年の自己評価結果及び外部評価結果を検討し、具体的に改善に取り組んだ。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議後は、全てのスタッフが報告・話し合いを行い、サービス向上に活かしている。	○	会議では有意義で積極的な話し合いがもたれ、毎回予定時間をオーバーする程。又、会議録の掲示スペースを玄関エントランスに設け、見やすく工夫した。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	常に、市町村担当者と連絡を密に取り、気軽に相談できる関係を築いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	文書配布による勉強会を設けている。また、ミーティングの場で個々に必要性を話し合い、活用支援している。	○	必要時すぐに活用支援できるよう、誰にでも取り出しやすい場所にパンフレット・連絡先を設置した。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	カンファレンス・ミーティングなどで学ぶ機会を日常的に持ち、虐待が見過ごされていないか、職員同士十分に注意を払い防止に努めている。	○	ホーム用のマニュアルを整備し、それらを元にさらに学習を行っている。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	グループホームに適した入居対象者であるか十分に検討し、本人・家族の希望等を把握し、不安の無いように十分な説明をしている。又、退去時には契約に基づき、納得のゆく退去先に移れるよう十分に支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談・苦情の受け入れ窓口を設けており、担当者不在時には、他職員による対応も徹底している。入居者・家族には、契約書及び口頭でもお伝えしている。又、苦情のあった際には、ホームで定める「苦情処理概要」に沿って対応し、運営に反映させている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	定期的に、たよりの発送・写真の送付等を行っており、必要時には随時連絡を行っている。金銭管理は毎月書面にて出納を明らかにしている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族が意見・希望を職員に気軽に伝えたり、相談できるように面会時の声掛け・定期的な連絡等を積極的に行い、開けた関係作りに努めている。又、苦情処理に対しては、契約書及び口頭にてお伝えしており、「苦情処理概要」に沿って対応すると共に、運営に反映させている。	○	苦情等に関する説明に、公的関係機関の案内を加えて行っている。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は、運営方法・入居者の受け入れや退去及び入居継続の可否について、職員の意見を日常的に聞いたうえで、運営に反映させている。又、管理者と職員には、信頼関係が築かれている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の状況や要望及び生活の流れを支援するために、ミーティングを行ったうえで、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	管理者は必要に応じて、職員との1対1のカウンセリングを行うなど、離職を必要最小限に抑える努力をしている。替わる場合は、あらゆる面で双方に配慮を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の段階に応じた研修を計画・受講し、その内容を全て職員に伝達し、周知している。	○	併設の老健の院内研修会に参加し、更に学習の機会を設けている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者の情報交換・交流は、定期的・日常的に機会を設けており、サービスの質を向上させてゆく取り組みをしている。(管理者会議等)		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を取り入れている。(カウンセリング等)又、観楓会や花見会・忘年会等、運営者も含めた法人行事を行っている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任を踏まえて共に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前には、本人と必ず面談の機会を持ち、困っている事・不安な事・求めている事等を本人自身から聴いており、それらを介護計画に起し、希望に沿う努力をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居相談時には、家族との面談や話し合いの時間を十分に持っている。又、気軽に相談できる雰囲気作りに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族の話を十分に聴き、相談のうえで介護計画を作成している。事業所だけで抱え込まず、必要に応じて他サービスの利用も踏まえた対応を行っている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	自分で決めたり、希望を表したりする事を大切に、それらを促す取り組みを日常的に行っている。随時サービスの必要性を把握して、本人・家族と介護計画を追加している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者の人格を尊重し、誇り・プライバシーを育てるような対応を心掛け、職員は入居者に育てられている事を忘れずに、手を貸すようにしている。実際、学ぶ事も多くあると感じている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員は、常に家族と馴染みの関係を築く努力を行っている。又、家族会や運営推進会議・行事への積極的な参加と関わりを持って頂いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	良い関係が出来るよう、会話の場を多く設けると共に、情報は常に共有するよう支援している。又、家族には今の本人の状態に理解を持ってもらうため、行事への参加や、ご面会の機会を持って頂くように促している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	定期的な、家族・知人への連絡を大切にしている。又、催物の案内などを行っており、本人との手紙のやり取りや、電話連絡も支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	本人の生活や生活習慣・人間関係など、職員は記録・カンファレンス・申し送りなどで把握しているので、関わりを持つ時には、職員は座席などに配慮し、利用者が孤立しないよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了時には、以降も必要時相談して下さるように必ずお声掛けをしており、転居先とは定期的な連絡を行うよう心掛けている。実際、家族からご相談を頂くケースも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者個々の違いの尊重・配慮・希望される介護を把握し、方法を工夫するなど努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	情報をもとに、生まれてこれまでの生活歴や本人にとって大切な経験・出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるために努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	詳細な記録と申し送りにて、全職員が随時、心身の状態の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的(緊急案内がある場合はその都度)に会議を開催して、ケアマネ・担当職員・職員による自由な意見交換の場を設けている。家族に連絡・相談のうえ、カンファレンスを行い、介護計画に反映している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時の見直しを家族と共に行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録して、申し送り・申し送りノートなどで情報共有を行い、介護・介護計画に反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	要望に対しては、可能な限り支援するよう努めている。又、外出等の希望時は、職員同伴にて実行されており、バスを利用した四季の外出行事も行っている。(老人保健施設併設のため、施設の行事見学も自由)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	周辺地域の諸施設からの協力を得て、習字教室・小中学生の研修での触れ合い・消防署の避難訓練などで理解を広げる働き掛けと共に支援している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他の事業所との交流を通じて対応している。本人の希望や体調に応じて、訪問理美容サービスを利用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を進んで開くように取り組み、周辺地域の情報や支援に関する情報交換・協力関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>1回/週の往診にて、日常の健康管理を行っている。事業所の協力医の他、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>随時相談・診断・治療を可能としている。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>管理者が看護師であるため、日常全てにおいて健康管理や医療の支援を行っている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院した場合、早期退院のために医師との話し合いや協力を医療機関と行っている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化する時が来ることを家族に説明しており、終末期に向けた方針について説明している。</p>	○	<p>現段階では「看取り」を必要とする入居者はいないが、「看取り」の必要性を理解している。他事業所の管理者や地域包括支援センター等から情報を受けて、必要時には取り組んで行く。</p>
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>常時、医師・管理者(看護師)の判断のもと、出来る事を見極め、今後の変化に備えると共に、チーム全体で支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	転居先との情報交換を充分に行い、ダメージを最小限に食い止めるよう努力している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを保てるように、常に心掛けている。又、個人情報の取り扱いの徹底に努めている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	介護時、自己決定の支援を行っている。(選択の必要がある場合は、本人による選択を待つ)		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者が自由に、自分のペースを保てるよう個別ケアを実践している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の希望に沿うよう支援している。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	嗜好の把握とそれに沿うように、準備・食事・片付けを職員と共にやっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	可能な限り支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレでの排泄を大切に支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	随時入浴可能としており、常識範囲内での希望に沿った時間帯に行っている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	休息や睡眠は、個人の状況に応じており、居室が静かな空間になるよう常に配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	外出の機会を多く設けると共に、一人ひとりの力を活かした活動を見つける支援をしている。(植木のお世話や趣味活動等)		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	売店での買い物・自動販売機・喫茶室の飲食等、希望や力に応じた支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外出の機会を多く設ける事を常時心掛けている。日用品の買い物などは随時対応しており、散歩なども毎日施行している。又、職員の外勤時にも声掛けし、参加される事もある。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者の希望も取り入れながら、季節の節目に遠出の外出を設けると共に、家族の協力をお願いして機会をつくるようにしている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者による電話や手紙のやり取りは積極的に支援をしている。又、報告書や通信などと共に本人の手紙を入れることもある。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家庭的で開放的な場を提供すると共に、職員も顔馴染みになるよう会話を大切にしている。入居者の友人の訪問や、施設内で顔馴染みになった老健施設入所者の訪問も気軽に行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修などにて全職員が正しく認識しており、身体拘束の無いケアを実践している。	○	マニュアルを整備し、更にケアの工夫に活かしている。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は、居室及び玄関は施錠せずにケアを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	各職員の連携を保ち、個々の入居者の様子を把握している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	本人にとって危険な物品は、ホーム全体で判断し、個々にお預かりしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	研修会・勉強会を定期的に行っている。又、職員間の情報共有等で、常時一人ひとりの行動の把握はされており、個々の事故発生のリスクを検討している。随時ヒアリングを記録し、職員の共有認識を図っている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	管理者(看護師)の指導のもと、定期的に、研修・講習・訓練が行われている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域の方々との交流を図り、常時協力体制を整えている。マニュアルを作成し、年に回数、利用者と共に避難訓練を実施している。	○	
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時、状況報告と共に起こり得るリスクについての話し合いを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	密な申し送り・毎日のミニカンファレンスにて、情報共有に努めて対応している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬リストの確認を義務化すると共に、様子観察の施行及び報告を徹底している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	毎日歩行練習を兼ねて、遠・近距離散歩と運動促進を心掛け、水分・食事に工夫をしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、義歯の洗浄・口腔ケアを個々に合わせて施行している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量・水分摂取量のチェック表を設けており、毎食チェックをしている。全職員が把握し、支援している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後・食事前・トイレ後の手洗い・うがいの施行及び訪問客の手指消毒を施行している。ケア前後の職員の手洗い・手指消毒を施行している。	○	今年、感染症に対する院内研修(老健)に参加し、医師によるインフルエンザ予防と知識の講義、外部講師によるノロウイルスの講義で学習した。又、マニュアルの整備も行った。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具・ふきん・タオルの消毒は毎日行い、食材は使い切りと決めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	清掃はもちろん、家庭的雰囲気づくりに、木・花などの植物を配置しており、エントランスには、季節の飾りつけや展示を行っている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	換気・室温には十分な気配りを行っている。又、穏やかで家庭的な雰囲気づくりのため、季節を感じる掲示物や演出を心掛けている。木・花などの植物を配置し、季節を感じる演出を心掛けている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂・リビング・畳部屋と空間を大きく取り、個々に合わせた時間提供を行っている。	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具等を揃えていただき、安心して過ごせる居室にしている。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気の時間を決め、常に温度計を確認し、適温である温度調節を行っている。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	戸口・廊下と共有スペースを充分に取り、自助具での生活環境を意識して、自立した生活が送れるよう支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>随時、移動時の目配りを欠かさず、さりげない誘導を行い、混乱・事故を防止している。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物内外に、季節の木・花を配置し、散歩しながら楽しめるよう支援している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- 行き届いた個々のケアが行われているグループホームです。
- 老健併設の利点を活かし、趣味活動・ホーム内外行事・ご家族会など、利用者さまとご家族さまに楽しんで頂く機会を多く設ける工夫を致します。
- 建物4階部分にあり、景色も良く明るく広々としており、ワンフロアであるメリットを活かしたグループホームです。